

平成30年度

七ヶ宿町ふるさと創生総合戦略検証資料(中間評価)

～平成30年度七ヶ宿町ふるさと創生総合戦略の取組～

第1節 雇用創出プロジェクト

(1) 基本目標

- ・ 働く場所を確保し、安定した雇用を創出する

雇用創出プロジェクトでは、売れる地域特産品の開発や森林再生による新事業の創出、道の駅、ダム周辺を拠点にした経済循環により、地域経済を活性化し、雇用を創出します。

数値目標	基準値	目標値 (H31)	達成値 (H28)	達成度	達成値 (H29)	達成度
雇用機会の創出数 (15歳以上就業者数)	715人	700人	数値公表前		612人	87.4%
創業支援数	2ヶ所	7ヶ所	5ヶ所	71.4%	5ヶ所	71.4%

(2) 講ずべき施策に関する基本方向

- ・ 食を活かした地域ブランド開発
- ・ 森林再生による新事業の創出
- ・ 道の駅、ダム周辺を拠点にした経済循環

施策 食を活かした地域ブランド開発						
食を活かした地域ブランド開発に向けて、売れる地域特産品の開発やおらほの名物・土産品の開発等の取組を実施する。						
数値目標	基準値	目標値 (H31)	達成値 (H28)	達成度	達成値 (H29)	達成度
起業、創業の支援件数	2件	5件	4件	80.0%	5件	100.0%
名物、土産品の開発件数	2件	5件	2件	40.0%	2件	40.0%

1) 安全と環境に配慮した売れる地域特産品の開発

地域の資源を最大限に活用し、雪室等を活用し、食の安全と環境に配慮した特産品の開発、販売事業及び新たな起業・創業への支援拡充事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
<p>雪室等を活用した特産品開発、販売事業 (農林建設課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 源流米、蕎麦、リンゴ、ジャガイモ等を雪室で保存・熟成し、加工するなど、地域資源を活かした地域ブランド化を推進する。 ・ 自家製の味噌や豆腐、漬物など、地域の食文化や保存食の技を活かした付加価値のある商品開発、販路形成を推進する。 						<p>旬の市で開催するイベントにおいて、雪室案内ツアーや雪室仕込みジャガイモの試食を行い、農産物のイメージアップに取り込むことができたが、雪室農産物の付加価値向上及び商品の生産拡大までには繋がらなかった</p> <p>C</p> <p>継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雪室の利用促進に繋がるパンフレット制作事業。 ・ 町内生産者より買い取りを行うため、生産量の拡大を呼びかける。 ・ 雪室管理運営組合及び販売施設の在り方について検討する。 ・ 全体の生産量を増やす取組を行う。
<p>新たな起業・創業への支援拡充事業 (ふるさと振興課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雇用奨励金、雇用対策補助金、就農支援金、及び産業活性化助成金等の既存制度を拡充する。 ・ 新たな起業・創業のための情報提供や相談受付、財政的な支援等の仕組みを拡充する。 						<p>産業活性化助成金申請件数 7社</p> <p>雇用奨励金申請件数 8社</p> <p>B</p> <p>継続</p>	<p>事業の規模拡大や産業の創出、雇用の促進を図るため、各種助成事業を継続して行っていく。</p>

2) おらほの名物・土産品の開発							
七ヶ宿名物・土産品の開発に向けて、七ヶ宿スイーツ開発事業及びふるさと祭り等を活用して食のコンテストやB級グルメコンテスト等を推進する。							
事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
七ヶ宿スイーツ開発事業（ふるさと振興課） ・地元の食文化と融合した気軽に食べられる若者や女性向けのお菓子やせんべいなど、「七ヶ宿スイーツ」を開発する。 ・あぶらまんじゅうなど七ヶ宿ならではの人気のある商品の継続、再興支援を行う。						ブランド事業化において、12品目の七ヶ宿ブランドを認定。商品のブランド化及びブランドロゴ・パンフレットを作成。七ヶ宿ブランドの知名度を向上させるためのイメージアップができた。	B 継続 七ヶ宿ブランドの認定を通して意識醸成を行い、新たな商品の開発のしやすい環境づくりを行う。商工会に地域おこし協力隊を配置し官民連携した取り組みを行う。
食文化ブラッシュアップ事業（ふるさと振興課） ・ふるさと祭り等のなかで食のコンテスト、B級グルメコンテスト等を開催するなど、食の認知度を高める。						他市町において、七ヶ宿源流米米粉焼きそばを出店し、地域食材商品をPR	B 継続 継続実施

施策 森林再生による新事業の創出							
新事業の創出に向けて、森林生産環境の整備や再生可能エネルギーの導入推進、及び木の家「七ヶ宿住宅」の開発等の取組を実施する。							
数値目標	基準値	目標値（H31）	達成値（H28）	達成度	達成値（H29）	達成度	
林業における新規就業者数	0人	5人	3人	60.0%	7人	140.0%	
循環型産業の新規事業所数	0件	2件	0件	0.0%	0件	0.0%	

1) 森林生産環境の整備							
森林生産環境の整備に向けて、100年先の森林・林業ビジョンを策定し、目標林型、生産目標、作業システム並びに長期的な路網整備を図るため、森林再生プラン策定事業や小規模林地施業団地集約化事業、及び貯木場や作業路、製材所等再生事業を推進する。							
事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
森林再生プラン策定事業（農林建設課） ・豊かな森林資源の持続的な活用を図りつつ、地域活性化に寄与する森づくりを目指す。 ・新たな木質バイオマス施設導入の可能性検討や森林・林業コンシェルジュとの連携により、地域の特色のある森林資源を反映させたプランを策定する。						終了	

<p>小規模林地施業団地集約化事業（農林建設課）</p> <p>・小規模な林地を面的にまとめ素材生産量を確保し、機械化と労働環境の改善を図り、新規就労者の定着化を推進する。</p>						<p>試験的に町有林において道ばた林業を実施し、効果等の検証を行ったが、民有地までの波及には至らなかった。</p>	<p>C</p>	<p>木質バイオマス計画に向けて、道ばた林業や団地化の推進により年間必要な素材（木材）を確保する。また、国有林と民有林の連携した路網整備を促進するため連絡調整を図る。</p>
<p>貯木場や作業路、製材所等再生事業（農林建設課）</p> <p>・貯木場や作業路、製材所等の再生を図り、積極的な地場産材の活用と安定した林業経営を支援する。</p>						<p>事業計画を策定し、設備導入の時期を決定した。</p>	<p>C</p>	<p>町有林等から出材した丸太の中間管理、および木質バイオマス燃料となる木くず生産および中間貯蔵施設（バイオマスホフ）の設置を計画。また、木くず生産や木材の集材を行う作業システムの導入を図る。</p>

2) 再生可能エネルギーの導入推進

再生可能エネルギーの導入に向けて、バイオマス普及拡大事業やメガソーラー設置運営事業、及び小水力発電実証モデル事業等を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
<p>バイオマス普及拡大事業（農林建設課）</p> <p>・町産材等を効率的に搬出し、安定的な熱源供給を可能とし、各家庭におけるストーブの設置等を推進する。</p> <p>・公共公益施設への導入の一環として、例えば、給湯需要が大きい温浴施設や施設園芸等での利活用を推進する。</p>						<p>事業化計画を策定し、翌年度事業の準備を行った。</p>	<p>未評価</p> <p>賑わい拠点施設（入浴施設・ガソリンスタンドロードヒーティング等）に、エネルギーとして木質バイオマスを活用していく。また、国道113号線の融雪道路として木質バイオマスエネルギーを活用していく。</p> <p>チップ材の確保を進める。</p>
<p>太陽光・小水力エネルギー活用事業（ふるさと振興課）</p> <p>・遊休公用地を貸し付けしメガソーラー事業を実施する。東日本大震災の教訓を忘れることなく、原子力に依存しないエネルギーの確保に寄与する。</p> <p>・水源の森づくりなどで育まれる豊かな水資源を活用し、小水力発電実証実験とエネルギー自給のモデル事業を展開する。</p>						<p>H30年度・9月工事完成に向け施工中。</p>	<p>未評価</p> <p>メガソーラー事業はH30.10月から稼働予定。事業者、協議会、地元等との調整を引き続き行っていく。</p>

3) 木の家「七ヶ宿住宅」の開発

町産材の有効活用に向けて、木の家推奨「七ヶ宿住宅」プラン策定及び「七ヶ宿住宅」建設助成事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度 of 取組	
	H27	H28	H29	H30	H31			
<p>木の家「七ヶ宿住宅」推進事業（農林建設課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場産材を活用し、デザイン性に優れ、環境に優しい住宅整備を普及するため、新たに「七ヶ宿住宅」プランを策定する。 ・部材の規格化を「七ヶ宿住宅」プランに反映させ、町産木材の使用を確実にするための供給体制を構築する。 ・七ヶ宿住宅プランの配慮事項（デザインコード）に沿った住宅建設をする際に、その建設費の一部を助成する。 						<p>試験的に貯木場を設置し、町有林材を乾燥。町営住宅等建設に使用。</p>	<p>B</p> <hr/> <p>継続</p>	<p>H30年度建設予定担い手住宅用材として、一部使用予定。</p>

施策 道の駅、ダム周辺を拠点にした経済循環

地域経済の好循環に向けて、道の駅、ダム周辺の利用活性化のためのハード、ソフト事業等の取組を推進する。

数値目標	基準値	目標値（H31）	達成値（H28）	達成度	達成値（H29）	達成度
道の駅における雇用者数	13人	17人	15人	88.2%	15人	88.2%
道の駅の売上高	1億1千万円	1億5千万円	1億2千万円	80.0%	1億1千万円	73.3%

1) 道の駅、ダム周辺の利用活性化

ハード面の取組として、休養・休憩施設等整備事業及びダム公園四季のお花畑事業を推進する。また、ソフト面の取組として、レンタルビジネス開発事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の実績評価	H30年度の実績評価
	H27	H28	H29	H30	H31			
休養・休憩施設等整備事業（ふるさと振興課） ・道の駅利用者のための休養・休憩施設等を整備し、滞留時間の拡大による飲食・物販等の売り上げを拡大する。 例えば、仮眠室、シャワー室、パン工房、足湯等を整備する。							B	既存施設の活用方法と併せて、集客拡大のための施設を検討する。
							継続	
ダム公園四季のお花畑事業（ふるさと振興課） ・桜の季節以後の集客を図るため、花の植栽や畑（景観作物）の整備等の行い、季節の風物詩となる魅力ある景観を創出する。						道の駅駐車場に花壇設置	B	さくらまつり開催。 魅力ある花壇づくりの取り組み。
							継続	
レンタルビジネス開発事業（ふるさと振興課） ・ダム周辺施設利用の活性化を図るため、いも煮やバーベキュー、パラソル等のレンタルサービスを展開する。 ・パークゴルフ、グラウンドゴルフ等の軽スポーツ事業を拡充する。						・パークゴルフ場 グラウンドゴルフ場 運動広場の管理協力金徴収。 ・管理事務所2名雇用。 ・パークゴルフ場2コース36ホール増設。	B	公園内の案内看板等更新。
							継続	

第2節 交流促進プロジェクト

(1) 基本目標

- ・七ヶ宿町への移住・定住の流れをつくる

交流促進プロジェクトでは、山村文化研究の実践と活用や交流人口拡大に向けた拠点整備、及び営業力と情報発信力の強化により、観光入込客数を含む交流人口の拡大を図り、交流から移住へ、移住から定住への流れをつくります。

数値目標	基準値	目標値 (H31)	達成値 (H28)	達成度	達成値 (H29)	達成度
観光入込客数	54万人	70万人	48万人	68.6%	49.5万人	70.7%
UIJターン者数移住者数	0人	40人	14人	35.0%	32人	80.0%

(2) 講ずべき施策に関する基本方向

- ・七ヶ宿自然文化の再発見と活用
- ・交流人口拡大に向けた拠点整備
- ・七ヶ宿くらし研究所の創設

施策 七ヶ宿自然文化の再発見と活用						
地域資源を活用した交流人口拡大に向けて、山村文化の再発見と活用及び宿場の街なみづくり推進への取組を実施する。						
数値目標	基準値	目標値 (H31)	達成値 (H28)	達成度	達成値 (H29)	達成度
体験交流プログラムの実施数	3回	10回	6回	60.0%	8回	80.0%

1) 山村文化の再発見と活用

七ヶ宿らしい山村文化の活用に向けて、食文化の再発見と活用事業及び伝承文化の継承と交流事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
食文化の再発見と活用事業（ふるさと振興課） ・地域の伝統食、行事食等を再発見し、その知恵や技を次世代に継承するとともに、体験交流プログラムとして展開する。 ・人々の暮らしのなかで活用され、昔から体に良いものとされる薬草等を研究し、利活用する。						七ヶ宿くらし研究所において、地域の伝統料理を提供しながらスタッフが地域のお母さんより指導を頂いた。	B 継続 くらし研究所主催イベント等で郷土料理の提供。
文化の継承と交流事業（教育委員会） ・「水と歴史の館」を拠点にした自然、歴史文化の継承の一環として、祭りや遊び等を掘り起し、都市農村交流を推進する。						水と歴史の館特別展の実施。 町史跡「湯原城跡」を指定。	B 継続 町指定文化財となる湯原館跡の環境整備を進める。

公共トイレぴかぴか事業（ふるさと振興課） ・トイレが汚いのは町のイメージダウンになるため、きれいな公共トイレを維持できるよう整備を行い管理を徹底する。						水芭蕉駐車場及び役場前バス停のトイレ洋式化を実施	B	バス待合所トイレ改修及び、トイレクリーニング清掃実施。
							継続	
2) 宿場の街なみづくり推進								
魅力ある街なみづくりに向けて、安藤家本陣の活用推進事業及び街道の街並みまちづくり事業を推進する。								
事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価		H30年度の実績
	H27	H28	H29	H30	H31			
安藤家本陣の活用事業（教育委員会） ・七ヶ宿における街道文化の象徴ともいえる安藤家本陣の一般公開や体験イベント等を含めて、利活用を推進する。							未評価	活用計画の策定や保存の在り方なども検討。
街道の街なみまちづくり推進事業（ふるさと振興課） （教育委員会） （農林建設課） ・宿場の雰囲気を残した伝統的建造物の保存及び街なみ修景、屋号看板の設置・更新等により、街道の歴史を活かしたまちづくりを推進する。また、街なみまちづくりの探訪ルートを整備し、「わらじで歩こう七ヶ宿」を含めた通年型観光を推進する。						滑津旧街道木橋及び逢瀬橋の補修工事を実施 観光看板の更新・修繕。	B	観光看板等の修繕。
							継続	

施策 交流人口拡大に向けた拠点整備						
交流人口拡大に向けた場や機会の拡充に向けて、交流拠点の整備と利活用及び移住交流プログラムの推進に取り組む。						
数値目標	基準値	目標値 (H31)	達成値 (H28)	達成度	達成値 (H29)	達成度
遊休施設の再生件数	5件	15件	8件	53.3%	9件	60.0%
交流イベントによる入込客数	200人	500人	149人	29.8%	271人	54.2%

1) 交流拠点の整備と利活用							
交流拠点の整備と利活用に向けて、スローな里山暮らし再発見事業、スキー場の利活用促進事業、ふるさと体験交流館整備事業、及び南蔵王エリアの交流拠点拡充事業等を推進する。							
事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
スローな里山暮らし再発見事業（ふるさと振興課） ・空き家（古民家）の再生による農家レストランや古民家ゲストハウス、滞在型クラインガルテン、シェアビレッジ等の事業を推進する。						くらし研究所にくらけんcafeがオープンし、2軒のお試し住宅の修繕が完了、移住を検討している方に利用されている。	B 継続 (株)七ヶ宿くらし研究所と連携し、今後の空家の活用を推進する。
スキー場の利活用促進事業（ふるさと振興課） ・人工スキーやセミナーハウス等の整備による新たな活用の推進とホテル観賞会などのソフト事業を組み合わせ、更なる交流人口の拡大を図る。						年次計画によるリフト修繕	B 継続 ・夏期リフト・グラススキーの営業休止。 ・山の遊び館の建設。 ・圧雪車の更新。 ・山の遊び体験事業の新規展開。
ふるさと体験交流館（旧湯原小学校）整備事業 （ふるさと振興課） ・冬期間の運動不足解消など体育館を子ども達の遊び場として開放するとともに、夏期講習施設、体験交流施設、地域交流施設、ベンチャー創業支援施設等として活用を図る。							未評価 H30.10月より営業開始予定。 体験イベント等の取り組みを検討し深めていく。
南蔵王エリアの交流拠点拡充事業（ふるさと振興課） ・横川渓谷、長老湖等の地域資源を拡充、整備を図り、ファミリー層の滞在型・体験型観光を推進する。						建築設計を行い、より具体性をもった	B 継続 用地の整理及び一部施設解体。 長老湖線の改良。

2) 移住交流プログラムの推進

移住交流の推進に向けて、空き家を活用したお試し居住事業、交流イベントによる賑わい創出事業、しちかしゆく自然体験村推進事業、及び陶芸の里づくり事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
<p>空き家お試し居住事業（ふるさと振興課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住先を探している人を対象に、きっかけづくりとして空き家を活用したお試し居住（移住体験）機会を提供する。 		◆				<p>・お試し住宅として、移住を検討している方などが利用している。</p>	<p>B</p> <p>継続</p> <p>(株)七ヶ宿くらし研究所と連携し、通常のお試し居住利用とイベントでの宿泊利用などを通し、体験から移住につながる流れをつくる。</p>
<p>交流イベントによる賑わい創出事業（ふるさと振興課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力再発見のため、若者参加のイベントや体験交流、音楽祭、フェスティバル等を開催し、賑わいを創出する。 		◆				<p>七ヶ宿くらし研究所において、スノーランタン等含めた新たなイベントを開催</p>	<p>B</p> <p>継続</p> <p>継続実施</p>
<p>しちかしゆく自然体験村事業（ふるさと振興課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山暮らしを体験する山村留学「しちかしゆく体験村」における体験プログラムを拡充する。 	◆					<p>春田植え体験6家族20名、ホタル鑑賞会43名、秋13家族54名、冬42名の149名の参加実績。 H29年度において、8回のイベントを開催し、197名の参加。</p>	<p>A</p> <p>継続</p> <p>継続実施</p>
<p>芸術の里づくり事業（ふるさと振興課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手陶芸家が創作に打ち込み、かつ、定住できるよう半陶芸×半Xの支援体制を整備する。 ・町民が陶芸に親しみ、七ヶ宿町の材料で出来た食器で食事をし、カフェで利用するなど、陶芸の里づくりを推進する。 ・七ヶ宿の素材を生かした、陶芸による七ヶ宿焼きの商品化の開発を行う。 ・空き家等を開放して芸術家の卵を支援することにより、定住化も推進する。 		◆				<p>H29年度に地域おこし協力隊として1名採用。</p>	<p>A</p> <p>継続</p> <p>地域おこし協力隊の増員を図り、芸術の里づくりを促進。</p>

施策 七ヶ宿くらし研究所の創設						
交流事業の運営体制の強化に向けて、定住・移住交流支援の体制整備及び「住みたい」運動の発信力強化の取組を実施する。						
数値目標	基準値	目標値（H31）	達成値（H28）	達成度	達成値（H29）	達成度
移住に関する相談件数	5件	20件	13件	65.0%	71件	355.0%
移住者数	0件	10人	14人	140.0%	15人	150.0%

1) 定住・移住交流支援の体制整備							
交流支援体制の整備に向けて、定住支援センター事業及び空き家バンク等相談機能整備場を推進する。							
事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
「七ヶ宿くらし研究所」事業（ふるさと振興課） ・空き家（古民家）再生等の運営主体として位置づけ、定住支援事業を推進する。 ・古民家活用のバリエーションとして、古民家ジャズ、古民家バー、省エネや再エネ等の施設整備を行い、環境に配慮した存在として、交流拡大に資する事業を推進する。						施設利用者月平均242人、移住相談件数139人。	A 継続 継続実施
空き家バンク事業（農林建設課） ・移住者向けの空き家情報を「空き家・空き地バンク」として研究所で一元的に整理するとともに、お試し居住や移住等の仲介や調整などのコーディネートを実施する。						空き家バンクをスタートした。空き家利用1件成立。	B 継続 全国版空き家・空き地バンク登録

2) 「住みたい運動」の発信力強化							
「住みたい」運動の展開に向けて、「住み心地」アピール事業及びふるさと会員制度整備事業を推進する。							
事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
「住み心地」アピール事業（ふるさと振興課） ・ホームページのリニューアル等メディアを活用し、七ヶ宿の「住み心地」を分かりやすく、地域内外に発信する。 ・「とうほく回帰1万人会議」等が主催するイベントと連携し、移住者希望者の関心を惹きつける情報を提供する。						七ヶ宿くらし研究所を設立し、移住定住支援センターの指定管理となりイベントの運営や相談業務等を専門に行うようになった。また、七ヶ宿町の「住みたい応援」として、支援制度等の積極的に情報発信を行った。	A 継続 (株)くらし研究所と連携し、首都圏における移住フェアに積極的に参加し、情報発信を行う。また、caféを通じた相談業務を通して移住につなげていく。

<p>七ヶ宿ファンクラブ事業（ふるさと振興課）</p> <p>・リピーター拡大を図るため、七ヶ宿ファン層を対象に特典付ふるさと会員制度を整備する。</p>						<p>会員数現在36名。</p>	<p>B</p>	<p>運営をくらし研究所に委託し、会員を募り、地域のサポーターの拡充を図る。</p>
							<p>継続</p>	

第3節 若者定住支援プロジェクト

(1) 基本目標

- ・ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

若者定住支援プロジェクトでは、便利で魅力ある定住環境の整備や子育て環境の充実、若者の出会い機会の拡充により、若い世代が住みやすい環境整備を推進する。

数値目標	基準値	目標値 (H31)	達成値 (H28)	達成度	達成値 (H29)	達成度
合計特殊出生率 (町)	1.36	1.80	1.67	92.8%	1.03	57.2%
転出入増減数定住人口	-51人	-30人	-7	428.6%	-32	93.8%
保育所児童数	20人	30人	26人	86.6%	30人	100.0%

(2) 講ずべき施策に関する基本方向

- ・ 便利で魅力ある定住環境の整備
- ・ 子育て環境の充実
- ・ 若者の出会い機会の拡充

施策 便利で魅力ある定住環境の整備

定住環境の整備に向けて、地域内コミュニティの維持による活性化を図るため、若者向け住宅・宅地整備の促進及び利便性に配慮した定住環境の整備の取組を実施する。

数値目標	基準値	目標値 (H31)	達成値 (H28)	達成度	達成値 (H29)	達成度
若者世代のUIJターン人数	0人	30人	14人	46.6%	28人	93.3%
リタイア組のUIJターン人数	0人	夫婦5組	0人	0.0%	4人	40.0%

1) 若者向け住宅・宅地整備の促進

住宅・宅地の整備に向けて、担い手住宅建設、宅地分譲事業、多世代居住住宅等補助事業、及び空き家流動化促進事業等を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
担い手住宅建設、宅地分譲事業 (農林建設課) ・ 若者が定住、移住に魅力を感じるよう、担い手住宅の建設や宅地の分譲等の事業を推進する。 ・ 宅地分譲にあたっては、瀬見原地内宅地の未利用地の買戻しを行い、地域コミュニティの活性化に資する。						地域担い手づくり住宅は、H29年度まで、5世帯19人の入居。	A 今年度、3棟建設。 (繰越分1棟含む)
住みたい応援事業 (農林建設課) (町民税務課) ・ 町内に住むために自力で家を作る場合の経済的な負担軽減として、マイホーム取得や住宅リホームの補助制度を創設する。 ・ 町外通勤者や公共交通の過疎を補う経済的支援対策として、給油・燃料助成制度等を整備する。						街並み景観事業、住みたい住宅応援事業に伴い、定住している方の住環境の向上となっている。(評価B) 町外通勤者に給油券を給付する事業をスタートした。(評価A)	B 制度等に関する情報発信の強化を図る

空き家流動化促進事業（農林建設課）（ふるさと振興課） ・不動産の流動化を促し、良好なコミュニティ環境を維持するため、空き家の売買や賃貸の仲介、解体の促進費用の一部を助成する。						空き家バンク事業等 前述のとおり	B	制度等に関する情報発信の強化を図る
							継続	

2) 利便性に配慮した定住環境の整備

定住環境の整備に向けて、商業施設等の再構築事業、公共交通等生活の足拡充事業、及び除雪体制の拡充事業等を実施する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
賑わい拠点整備事業（ふるさと振興課） ・若者や主婦、高齢者等を対象にしたミニスーパーを誘致し、買物利便性を向上する。 ・来店数を確保する方策として住民の愛着向上や交流を図るため、多世代交流施設や食堂、コインランドリー、保育施設の併設など複合施設として整備する。 ・SSの燃料（灯油）配達併せて、生活雑貨等の配達サービス機能をもたせた、便利屋商店を整備する。						ミニスーパーが4月21日オープン	A 多目的交流棟運営開始 便利屋商店（ガソリンスタンド）建設 入浴施設建設 継続
利用しやすい公共交通環境整備事業（ふるさと振興課） ・通勤、通学、買物、レクリエーション等の生活の足として町営バス、デマンドバス等の運行ダイヤを適正に計画、配置する。						・老朽化した車両を更新。地域の足として、運行路線数を4路線から5路線に変更。	B 継続実施 継続
除雪体制強化事業（農林建設課）（総務課） ・除排雪困難家庭を対象に、定住対策のための新たな生活支援の仕組みを開発する。既存除排雪ボランティア団体等による取り組みは継続しつつ、有償ボランティアや業者委託等の仕組みづくりと助成制度を創設する。						集落における除排雪組織に対する経費の支援制度 自治会とシルバー人材センターで実施	A 継続 除排雪活動の燃料費助成を継続して実施し、安心安全な生活を送ることができるよう支援する。

施策 子育て環境の充実						
子育て環境の充実に向けて、子育て支援制度の拡充及び子育て環境の整備、機能強化の取組を実施する。						
数値目標	基準値	目標値 (H31)	達成値 (H28)	達成度	達成値 (H29)	達成度
出生者数	3人	10人	6人	60.0%	4人	40.0%

1) 子育て支援制度の拡充
 子育て支援制度の拡充に向けて、子育て世帯への経済的支援事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
子育て世帯応援事業（教育委員会）（町民税務課） ・経済的な支援として、子育て支援金の支給、子供医療費助成、保育料の無料化、学校給食費の無料化等を拡充する。 ・子育て世帯の経済的負担を軽減するため子育て応援等プレミアム商品券発行等の支援策を実施する。						保育料と給食費無料化を完全実施できたことで、子育て世帯の経済的軽減につながった。 子育て応援支援金及び医療費助成事業を実施	A 継続 事業名を一部変更し、継続
次世代リーダー養成事業（町民税務課） ・高校・大学等卒業後に町内に住んだら奨学金の返済金を免除する等、次世代のリーダーとなる人材を養成する。						制度化に至らず	C 継続 制度化して実施

2) 子育て環境の整備、機能強化
 子育て環境整備に向けて、保小中と生涯学習の体制整備事業、子育て支援センターの機能強化事業、及び産科、小児科医療の確保、医療連携事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
保小中と生涯学習の体制整備事業（教育委員会） ・子育て支援センターの充実を図り、安心な子育て環境の実現と連携した生涯学習体制を整備する。 ・小規模校の特色を活かした公開型の学習発表会など、学びと関連づけた都市農村交流等を推進する。						「七ヶ宿町の教育のあり方検討委員会」を立ち上げ、小中一貫校について検討に入った。	B 継続 ソフト面：「保小中一体の子育て・教育環境の具体的な取り組み内容の検討と保護者や地域へのアンケートや説明会の実施。 ハード面：校舎の位置や既存施設のあり方も含めた小中一貫校の考えや、調理場・プール・スクールバスの運営、規模の検討。
楽しい寺子屋事業（教育委員会） ・夏休みに宿題や勉強をみてる「寺子屋」を開設し、学習のみならず、多種多様な体験を通して視野を広げる機会を拡充する。						仙台大学の学生ボランティアに協力をもらった事で、経費をかけずに実施できたこと。	A 継続 中学生対象7月～12月の毎週土曜日学習塾開催

<p>七ヶ宿放課後児童くらぶ事業（教育委員会）</p> <p>・開発センターを会場に、放課後の居場所の確保を行うことで、共働きの家庭教育をお手伝いし、子育て環境の充実と子ども同士の交流（コミュニケーション）能力の向上を目指し、児童の健全な育成を図る。</p>						<p>児童・保護者が安心してクラブを利用できるようになったが、登録者に対し利用率が42%となっている。</p>	B	継続実施
							継続	
<p>安心出産応援事業（健康福祉課）</p> <p>・医師や助産師等による定期相談会の体制整備や県内外の医療機関における検診費用の助成を行い、安心出産を支援する。</p>						<p>交通費助成については、対象は全員が全回数利用した。広報等が上手くいっている。</p>	A	継続実施
							継続	

施策 若者の出会い機会の拡充						
若者の出会い機会づくりに向けて、若者主役の交流イベント開催や若者の結婚支援の取組を実施する。						
数値目標	基準値	目標値（H31）	達成値（H28）	達成度	達成値（H29）	達成度
若者の出会い機会創出数	0回	10回	3回	30.0%	5回	50.0%
若者の結婚件数	2組	20組	8組	40.0%	8組	40.0%

1) 若者主役の交流イベント開催							
若者の交流推進に向けて、体験交流イベント推進事業や交流拠点の開設事業を推進する。							
事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
<p>体験交流イベント推進事業（ふるさと振興課）</p> <p>・町内に住んでいても、農業などを体験すると新鮮で改めて楽しさを感じる。こうした山村の特性を活かした農林業体験のほか、みそづくり、魚釣り、着付け教室等の体験交流イベントを拡充する。</p> <p>・町外からは町を知るきっかけとなり、町内からは魅力を再発見できるよう、若者の出会いを応援する。</p>						<p>七ヶ宿暮らし研究所において町内若者の交流する機会を作った。</p>	<p>C</p> <p>今後七ヶ宿暮らし研究所においてイベントへ展開したい。七ヶ宿みらい会議の開催。</p>
							継続
<p>「（仮称）町民居酒屋」の開設事業（ふるさと振興課）</p> <p>・地元の食材やお酒を堪能できる、町民みんなが気軽に立ち寄れる町民居酒屋を開設し、若者の出会いの場となるまちコン等を実施する。</p>						<p>多目的交流棟を建設。</p>	<p>未評価</p> <p>こらっしえにて実施</p>
							継続

2) パートナー探し支援

結婚支援として、独身者の婚活支援事業及び結婚祝い推進事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組	
	H27	H28	H29	H30	H31			
婚活支援事業（町民税務課） ・プロデュース企業と連携した婚活イベントの開催、結婚相談所等への入会金助成を行うとともに、情報提供と、機会を拡充する。						・結婚相談サービスに係る費用を町が全額負担する事業は、全国的にも初の試みとなっている。 ・入会者4名 セミナー・イベントこれまで5回実施。 ・イベントの持ち方を再考する必要がある。	C 継続	内容を検討し継続実施。
結婚祝い事業（町民税務課） ・結婚が決まった夫婦を対象に、七ヶ宿を会場にした思い出ブライダル演出や結婚祝い金の支給等支援を実施する。						事業化に至らなかった	C 継続	新生活応援金の支給

第4節 まちの魅力・活力プロジェクト

(1) 基本目標

- ・時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。

まちの魅力・活力プロジェクトでは、安全で安心な地域社会の構築、暮らしの応援体制の整備、及び元気な地域づくりを推進します。

数値目標	基準値	目標値 (H31)	達成値 (H28)	達成度	達成値 (H29)	達成度
自治組織数	7地区	7地区	7地区	100.0%	7地区	100.0%
内発的な起業数	0件	1件	0件	0.0%	0件	0.0%

(2) 講ずべき施策に関する基本方向

- ・安全で安心な地域社会の構築
- ・暮らし応援体制の整備
- ・自立的な地域づくりの推進

施策 安全で安心な地域社会の構築						
安全で安心な地域社会の構築に向けて、防犯・防災体制の整備及び保健・医療体制の充実の取組を実施する。						
数値目標	基準値	目標値 (H31)	達成値 (H28)	達成度	達成値 (H29)	達成度
自主防災組織の設置数	0件	5件	0件	0.0%	0件	0.0%
人間ドック、脳ドックの受診率	0%	70%	37.7%	53.9%	43.8%	62.6%

1) 防災・防犯体制の整備

防災・防犯体制の整備に向けて、地域防災計画の見直し、策定事業及び自主防災体制の強化事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
地域防災計画策定事業（総務課） ・近年の自然災害等の現状と課題を踏まえ、七ヶ宿町地域防災計画を策定する。	◆					終了	
自主防災体制強化事業（総務課） ・地区ごとにハザードマップを作成するとともに、自主防災組織を設置し、避難訓練等を実施し、防災・減災に備える。 ・空き家の増加に伴うリスクの増大に対して、見守り等の防犯体制を強化する。		◆				七ヶ宿町防災マップを作成した。	B 各地区におけるハザードマップ作製の支援をする。 自主防衛組織設立へ指導、誘導を行う。

2) 保健・医療体制の充実

保健・医療体制の充実に向けて、保健・医療対策拡充事業及び生涯現役のための健康増進事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価		H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31			
<p>保健・医療対策拡充事業（健康福祉課）（国保診療所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療のきめ細かな対応に向けて、24時間電話健康相談体制や訪問看護体制の一層の拡充を図る。 						H28 相談件数28件 H29 相談件数19件	B 継続	継続実施
<p>生涯現役のための健康増進事業（健康福祉課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養計算された食の啓発や配食サービスの普及等、食を通じた健康増進事業を推進する。 ・町民全体の定期的な人間ドック、脳ドックの受診を推進する。 ・シルバー人材センターや地域の役割等を通じて生涯現役で生きがいを持って自立生活を送れるよう活動支援を行う。 						人間ドック事業は受診率20% 脳ドック事業は受診率45% 人間ドック事業は受診率18% 脳ドック事業は受診率47%	B 継続	年代毎の受診率等の数値分析や疾病構造を見ながら、どのような働きかけが有効か、また優先すべきか見えるように検討する。

施策 暮らし応援体制の充実

暮らしのサポートに向けて、地域ニーズに応じた生活支援、地域おこし協力隊の拡充、及び自立的な地域づくりの推進等の取組を推進する。

数値目標	基準値	目標値（H31）	達成値（H28）	達成度	達成値（H29）	達成度
定住支援センターへの相談件数	0件	20件	8件	40.0%	71件	355.0%
地域おこし協力隊の確保数	5人	10人	3人	30.0%	5人	50.0%

1) 地域ニーズに応じた生活支援

地域ニーズに応じた生活支援に向けて、高齢者の生活応援事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
高齢者の生活応援事業（健康福祉課） ・移動困難者や買い物困難者等を対象とした生活支援、移動販売（御用聞き）を兼ねた見守り支援を強化する。 ・定住支援センターによる相談や支援体制の整備を図る。						・幅広い対応が可能となった。 ・事業制度が浸透しつつある。	B サービス利用資格者に情報提供を行う 民生委員等、地区のお世話役に制度理解を促すとともに情報の共有を図る。

2) 地域おこし協力隊の拡充

外部の人材の積極的な活用に向けて、地域おこし協力隊の拡充及び定住支援センター事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
地域おこし協力隊の拡充（ふるさと振興課） ・暮らし応援の担い手確保の一環として、都会から若者の移住を前提にした地域おこし協力隊を拡充する。						任期満了となった隊員3人が引き続き町内に在住した。	B 活動業務を明確に特化した採用を行い、任期後の定住につなげる。 まちづくり振興として2名採用予定。
定住支援センター事業（ふるさと振興課） ・七ヶ宿へ移り住んだ町民等を対象に、悩み相談や意見交換、相互交流等を推進する。						七ヶ宿暮らし研究所にて相談実施	B 継続実施

施策 自立的な地域づくりの推進

自立的な地域づくりに向けて、元気な地域づくり推進事業の継続をはじめ、多様な主体による地域づくり推進やいきいき女性活躍促進の取組を実施する。

数値目標	基準値	目標値 (H31)	達成値 (H28)	達成度	達成値 (H29)	達成度
産学官連携の提携数	3件	5件	3件	60.0%	3件	60.0%
女性活躍による新規事業数	0件	3件	0件	0.0%	0件	0.0%

1) 多様な主体による地域づくり推進

元気な地域づくり推進に向けては、元気な地域づくり事業及び地域と地域、産学官連携事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
元気な地域づくり推進事業（ふるさと振興課） ・住民自らが話し合い、合意形成を図りながら地域の課題を解決していく、持続可能な地域づくりを推進する。						今年度も9つの地域づくり委員会を実施	B 継続 ・地域づくり委員会単位での活動を継続。 後継事業の検討を行う。
地域と地域、産学官連携事業（ふるさと振興課） ・生産者と消費者の交流連携等、例えば、サッポロビールと連携した源流米の栽培、大学（学生）との連携によるコミュニティ形成等の産学官事業を拡充する。						サッポロビールとの交流は継続中	B 継続 関係団体等との連携を図る

2) いきいき女性の活躍促進

女性の活躍促進に向けて、現役ママのアドバイス事業及び女性が働きやすい環境づくりのための就労支援事業を推進する。

事業内容	事業年度					H29年度までの実績評価	H30年度の取組
	H27	H28	H29	H30	H31		
現役ママのアドバイス事業（健康福祉課） ・先輩ママの視点で、「こんな時はこうしよう」というHow To本を作成し、女性がいきいきと活躍できる環境づくり推進する。 ・キャラクター母子手帳、七ヶ宿焼きの茶碗、地場産材利用のおもちゃ等七ヶ宿町ならではの品物を誕生記念としてプレゼントする。						・いきいき女性委員会において、6回にわたり意見集約を図った。 ・住民要望を具現化できる見込みとなった。	C 継続 母子手帳ケース 妊娠届提出後にいきいき女性委員会とともにプレゼント 出生後 バッグ、おむつ入れ、おむつ換えシートを町長からプレゼント
女性の就労支援事業（ふるさと振興課） ・特に子育て世代の母親、父親が子どもの都合に応じた働き方が可能なように、雇用者への理解要請と助成制度を新設する。							未実施 制度の検討